

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年11月30日現在）

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■指導・青年農業士 飛騨高山高校と連携し次代の担い手を育成

飛騨の産地を担う次代の担い手育成に向けて、毎年、指導農業士や青年農業士によるインターンシップの受入れなど飛騨高山高校との連携活動に取り組んでいる。

11月16日、飛騨高山高校山田校舎で2年生35名を対象に指導農業士1名と青年農業士2名による講話会が開催された。それぞれ同校の卒業生であり、自身の農業経営や就農に至る経緯、学生時代の過ごし方など熱心に説明した。

講話会終了後には、農業教育連絡協議会が開催され、指導・青年農業士に加え、女性農業経営アドバイザーや高校及び農林事務所職員など計48名が出席した。会議では、はじめに学生から研究活動発表の後、高校での活動状況や研修受入れ成果、飛騨の農業の現状などの情報提供及び意見交換が行われた。

農業普及課では、今後も高校との連携活動を支援し、次代の農業者育成を進めていく。



【農業の魅力を語る農業士】

#### ■青年農業士 「ひだファーマーズミーティング」を開催

11月2日、岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部主催による「ひだファーマーズミーティング」が高山市で開催された。

「ひだファーマーズミーティング」とは、青年農業士が中心となって、若手農家や新規就農者が地域や品目を超えた仲間づくりや情報交換をできる場として開催しており、今回で6回目となる。

当日は、コロナ対策を徹底した上で、青年農業士と新規就農者や農業研修生、農業普及課職員で6人程度のグループを作り、メモ用紙に経営内容や営農上の不安などを記入して話のきっかけとした。昨年からのコロナ禍で交流の機会が少ないこともあり、各グループとも話題は尽きることなく大いに盛り上がった。参加者からは、他の品目の生産者との交流が視野が広まったなど、ファーマーズミーティングのような交流の機会を今後も続けてほしいとの声を聞くことができた。

農業普及課は関係機関と連携しながら青年農業士の活動を支援し、担い手の育成や確保につなげていく。



【若手農業者で語り合い】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■水稲 アグリイノベーションでスマート農業技術をPR

11月11日～12日、農業普及課ではJAひだ飛騨地域農業管理センターで開催された「JAひだアグリイノベーション2022」において、中山間農業研究所並びに下呂農林事務所と共同でスマート農業技術の紹介を行った。

紹介したスマート農業技術は、「水稲ほ場情報システム（商品名 アグリルック）」で、衛星画像により出穂期や収穫適期の予測が行え、飛騨市と中山間農業研究所が飛騨版への改良を民間企業と取り組み、各農林事務所でも現地への普及を進めている。

当日は、システムの概要を紹介パネルで展示するとともに、実際にパソコンでシステム操作を体験してもらい、来場者からは「早速試しに使ってみたい」との意見も聞かれた。

農業普及課では、次年度も関係機関と連携して同システムの現地活用に向けた活動に取り組む計画である。



【展示ブースの様子】

## ■ほうれんそう 若手グループ「若菜会」が、ほ場視察研修を開催

10月31日、飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会若菜会によるほ場視察研修が高山市内で開催された。

飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会若菜会は、ほうれんそうの若い担い手で組織するグループで、高収量、高品質、省力化を目指して例年様々な活動を行っている。

視察研修には11名の会員が参加し、旧高山地区と清見地区で各1名ずつ計2名の会員のほ場を見学した。現地では、灌水方法やほ場の来歴など参加者から様々な質問が出され、活発な研修会となった。

参加者からは、「自分以外のほ場はなかなか見る機会がないので、貴重な機会だった」との意見が多くあった。

農業普及課では、JAひだと連携しながら飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会若菜会の活動を支援し、担い手の育成につなげていく。



【会員のほ場を視察】

## ■夏秋トマト 岐阜大学教授を交えスマート農業の現地検討会を開催

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会を中心とする飛騨夏秋トマトスマート農業協議会では、昨年度から夏秋トマトのデータ駆動型農業実証に取り組んでいる。

11月10日、協議会オブザーバーとして施設環境制御を専門分野とする岐阜大学嶋津教授を迎え、実証状況を確認し今後の方針を協議する現地検討会を開催した。

飛騨地域では、最低気温が15℃を下回り始める9月下旬以降にハウスサイドや妻面に被覆資材を追加して保温し、着色促進を図る事例が多い。しかし、気温が低下する10月に入ると果実に結露が発生し、灰色かび病による腐敗が増加して減収の原因となっている。

そのため、実証ほではサイドビニールの自動開閉装置によってハウス内環境の改善を図り、結露軽減を目指している。

現地検討会では、サイドビニール自動開閉方法や果実の結露状態について確認し、嶋津教授からは結露軽減するための被覆方法の提案や取得したデータの分析方法に関するアドバイスが得られた。

農業普及課では、実証ほのデータ収集・分析を行うとともに、実証成果について冬期間の研修会等で産地へ情報提供する予定である。



【結露を確認する嶋津教授】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■果樹 高山市果実組合青年部が「JAぎふ おんさい広場」で飛騨りんごを販売

高山市果実組合では、旧高山市内を中心に約30戸の生産者がりんご、ももなどの果樹を栽培している。

11月5日、高山市果実組合青年部が同じ県内で生産される飛騨りんごを平坦地の方々に味わってもらいたいと、岐阜市近郊にある直売施設「JAぎふ おんさい広場」3店舗にて、りんご12品種を持ち込み対面で販売した。

当日は天候に恵まれたこともあり多くの買い物客が訪れ、栽培農家から品種ごとの特徴を聞きながら、自分の好みにあった飛騨りんごを選び購入していた。

販売会は、午前中にほとんどが売り切れるほど好評で、飛騨りんごの良いPRにもなった。

農業普及課では、今後も果樹生産の技術だけでなく、産地を支える組織活動を支援していく。



【多くの人が訪れた  
飛騨りんご販売】